

# 9 対応を話し合い、教職員の協働性を高める事例研究 <生徒指導>

## ねらい

事例の対応を検討することで、取組について具体的に話し合うことができる。  
対応を話し合いまとめることで、指導の見通しを共有することができる。

## 提示事例の作成

### (1) 提示事例の示し方

「Aさんは な子どもで、それから で、また もあり  
それと 」と説明が延々と続くと、結局どんな子ども  
なのかが分かりにくい。  
説明の最初に次の三点について書面で示しておく、参  
加者がその後の細かい説明をイメージを持って聞くこと  
ができる。

事例児童生徒が  
どんな子ども  
か、参加者に伝  
わりやすくする  
ための工夫が大  
切です。

事例児童生徒はどんな子どもか、端的にまとめて言うと

例 素直で真面目だがおとなしく、教室に全く入れず毎日相談  
室で過ごしているAさん

1～2行でま  
とめると、ど  
んな子どもか  
全体像がつか  
めやす。

事例提供者が参加者に話題にしてほしいこと、相談したいことは

例1 Aさんを教室へ向かわせるた  
めにどんな取組ができるか

例2 Aさんの自己表現を増や  
すためにできることは

自分ならどう  
対応するかを  
考えながら聞  
けます。

事例児童生徒に望む姿、めざす姿は

例1 帰りの会や給食等の短時間、  
教室で過ごさせてみたい

例2 「分かりません」が言えな  
いので言えるようにしたい

子どもに求め  
ることを考え  
ながら聞けま  
す。

紹介として例を二つ挙げたが、実際は一つでよい。

事例提供者の取組の是非を問うのではなく、事例から参加者全員が学ぶのが事例  
検討会です。「事例提供者自身の思いや悩み」が紹介されると、参加者も自分  
ならどうするかと真剣に考えます。

## (2) 提示事例の補足情報

### 校外関係

- ・本校に入学する前の学校等での様子
- ・関係機関からの情報
- ・地域、家庭での様子等

個人情報の扱いに留意しながら可能な範囲で集めます。

学習面にも注目します。

### 校内関係

- ・集団式知能検査、学力検査結果とその変容
- ・教育相談に関するアンケートやチェック表、出欠状況等
- ・Q-U検査、学級での様子等

## 具体的なすすめかた

### (1) 事例についての説明と質疑(20分)

提案資料をポイントに沿って説明する。必ず質疑の時間をとること。

### (2) グループでの協議(50分)

各自が次の2点について別々の付箋紙に書く。

**A 対象児童生徒の特性や興味・関心の理解について**

**B 教職員の対応、対象児童生徒の取組について**

3～5人程度のグループで付箋紙を整理し、「事例児童生徒に望む姿・めざす姿」について、実現のステップ(「理解」に基づいた「対応・取組」の流れ)を模造紙にまとめる。

「帰りの会や給食等の短時間、教室で過ごさせてみたい」(前ページ例1)  
グループでまとめた「実現のステップ」(例)

#### A 理解

緊張せず意欲的に活動できるのは、好きな絵をかく時

#### A 理解

幼なじみのBさんとCさんとは交流がある

#### B 対応・取組

帰りの会や給食より、まず昼休憩にBさん、Cさんと教室で好きな絵をかいてみる

実現可能なステップを具体的に協議し共有することで、対応の見通しや協力体制が見えてきます。

話し合いの流れによっては、「事例児童生徒に望む姿・めざす姿」を例のように「帰りの会や給食より昼休憩」等と変更してもよいです。

### (3) 各グループの協議内容の発表とまとめ(20分)

事例児童生徒の理解を深めるのみにとどめず、どんな対応や取組ができるのかを話し合しましょう。

実現可能な対応・取組の流れを校内教職員でつくり上げることが、日々の実践の意欲につながります。

中学校区の小・中学校で参加できる先生に協議へ加わってもらいと、児童生徒の発達段階の理解と学校間の連携が深まります。